

2020 年度修士副論文

クラシックギターの中国音楽作品に関する一考察

洗足学園音楽大学大学院音楽研究科

器楽専攻（弦楽器）修士課程

学 籍 番 号 19225002

氏 名 YAN SHI

実技指導教員 原 善伸

論文指導教員 劉 丹

目 次

序論	1
第1章 作曲家によるクラシックギター中国音楽作品	3
第1節 プロ作曲家の作品—黄思瑜《大唐楽宴》の場合	3
第2節 その他のプロ作曲家による中国音楽作品	7
第3節 民間作曲家によって創作、改編された作品	8
第2章 演奏者によるクラシックギター中国音楽作品	10
第1節 国際的クラシックギター中国演奏者による作品	10
第2節 中国音楽に「夢中」になる海外演奏者による中国音楽作品	13
結論	15
謝辞	16
資料・参考文献リスト	17
クラシックギターの中国音楽作品一覧	17

序論

1 研究背景と目的

クラシックギターは和声が繊細であり、音色が豊かである西洋の撥弦楽器として、バロック時代、古典主義時代、ロマン主義時代から現代派まで、長い発展の過程を経ている。私たちが熟知しているバッハ、モーツァルト、タレガ、ブローウェルなどの巨匠たちは、改作にしても新作にしても、馴染み深い古典的な傑作を多数残した。これらの作品の多くは西洋の音楽文化に由来し、西洋音楽の創作手法を用いて創作されている。西洋音楽の科学的で厳密な理念は、音楽創作とコミュニケーションに強固な基盤と便利なプラットフォームを提供しており、その中で、五線譜が世界的に音楽の「共通語」になったのは説得力のある証明である。しかしながら、世界最古の文明の一つである華夏文明においては、独特な音楽創作と表現手法を持ち、謙虚な性格及び雄大な東洋の魅力を完全に表している。ここで大胆に想像しても構わなければ、仮に中国の音楽作品がクラシックギターで演奏されれば、必ず神秘的で興味深い「探険の旅」になれるだろう。

近年、中国の古典ギター演奏家が国際的な舞台で頻繁に活躍するにつれ、ますます多くの中国音楽作品が広く普及されてきた。本研究では、クラシックギターの中国音楽作品を中心に、作曲家が創作した作品と演奏家が改編した作品の2つの角度から、クラシックギターの中国音楽作品の主な特徴と表現方法を研究して行く。作曲家は、しばしば非常に豊富な理論、器楽構造と演奏の知識を備えており、同時に豊かな経験を持っている。彼らは国内外の有名なギター演奏家や音楽活動の招待を受け、献曲を委任されることをきっかけとし、ギター作品を創作している。一方、演奏家は、古典ギター演奏事業に対して大きな情熱を持ち、ギターに対する愛と理解によって作品を改編する者である。彼らは自分の作品を次第に全世界に提示し、中国の伝統文化を味わっていない聴衆のため、音楽美学観念に対して別の角度で鑑賞と思考を提供している。また現在、中国国内では関連資料の整理が少ないため、できるだけ中国のクラシックギターの音楽作品を収集し、リストを作成する。そして、今後の西洋音楽作品と中国音楽作品との違いについての研究に対する参考となれることも本論文の目的である。

2 研究対象

本論文の研究対象は中国のクラシックギター作品である。本論文では、「中国音楽作品」とは中国の伝統的な様式や表現方式を反映した作品を指すものとし、「西洋音楽作品」とは西洋の芸術音楽の様式に基づく音楽とする。「中国音楽作品」を用いる原因は、現在多くの聴衆が中国音楽作品に対する感情は国境を超えており、創作や演奏者は中国国籍に限らず、多くの非中国系者まで含まれているからである。また現在、西洋音楽の創作方法を利用して書かれ、改編された中国音楽作品については、

その創作方法は伝統的な中国音楽を踏襲しているわけではないが、中国の伝統的な民話や神話などを音楽で解釈したり、作品に中国の伝統音楽の要素を加えたりしているため、作品が創作方法に限らないように「中国音楽作品」という言葉を使用することにした。

3 研究方法

中国では、現在クラシックギターに関する資料はピアノ、バイオリンなどの楽器に比べて数が少なく、特に筆者が把握している情報によると、現在、中国大陸地区では中国音楽作品の曲集は正式に出版されていない。そこで、本研究では中国の音楽作品に関する情報をできるだけ多く得るため、クラシックギターに関する全論文や資料を調べるほか、主にネットワークを利用して情報の収集をしていきたい。そして、大量の音源やビデオの視聴調査を通し、これまでに創作あるいは改編された中国のクラシックギター音楽作品を記録していく。最後に、上記で収集した大量のデータを整理し、代表的な作品、作曲者、演奏者を選び、さらに深い調査と分析を行っていく。本論文の中核となる「中国音楽作品」の特徴や表現方法を分かりやすく読者に説明するため、研究対象となる作曲家、古典ギター演奏家と積極的に交流し、またインタビューなどの形式により、彼らの創作、演奏の心得などの一次資料を獲得し、文章の内容を充実していく。執筆者にとって、より多くの聴衆に中国音楽の魅力を感じさせることは永遠の課題である。

第1章 作曲家によるクラシックギター中国音楽作品

近年、中国の伝統文化は世界に広く浸透しており、中国のクラシックギターの絶え間ない発展と進歩に伴い、国際舞台ではクラシックギターのために特別に作曲された中国音楽作品が数多く登場し、プロの作曲家たちがクラシックギターのための中国音楽作品の制作に積極的に取り組んでいるケースも増えている。

第1節 プロ作曲家の作品—黄思瑜《大唐楽宴》の場合

これまで、中国大陸地区のクラシックギター資料のほとんどは台湾からの引用であり、例えば、中国本土で最も推薦されているクラシックギター教材の一つ『古典吉他大教本（クラシックギターの教科書）』は、台湾の有名なクラシックギタリストの郭清傑氏（生没年などの関連情報での検索は不明）が編纂した古典的な教科書である。本研究の執筆者もこの教科書を強く推奨している。

台湾地区の作曲家はクラシックギターの中国音楽作品の創作に多大な貢献をしてきた。ここではアメリカを中心として活動している台湾の作曲家黄思瑜を紹介したいと思う。

1 黄思瑜について

黄思瑜は1970年生まれの台湾の作曲家、ピアニストである。台南女子技術学院（Tainan Woman's College of Arts and Technology）で電子オルガンとピアノを専攻する傍ら、1987年に作曲の勉強を始めた。1996年、台北の中国文化大学を卒業した。1997年にオーストラリアのメルボルン大学で作曲とピアノを学んだ。いままでに、彼女は90以上の創作作品と100以上の改編作品を持っている。彼女の作品は、台湾の交響楽団とアンサンブルだけでなく、日本、ドイツ、チリ、スウェーデンなどのグループやアーティストにも委嘱され、世界中で演奏されている。2010年には、オーケストラ作品《赤月の伝説》が、台湾の国立交響楽団（NSO）のコール・フォー・スコア（Call for Score）プレミアプログラムで初入賞の作品となり、国立交響楽団において台北国家音楽ホールで世界初演を行われた。そのほか2013年イブラ・グランド・プライズ・国際音楽コンクール作曲賞最優秀賞、2015年アメリカ音楽作曲コンクール入選、2016年ラヴェル国際作曲コンクール入選など国際的な賞を受賞した。

クラシックギターの分野では、黄思瑜の作品は現在、クラシックギターのソロ作品が7曲、クラシックギターと他の楽器との共演のための室内楽作品が14曲、クラシックギター協奏曲が1曲、クラシックギターと声楽の作品が1曲、歌曲から改編した曲が7曲、室内楽から改編した曲が8曲となっている。1997年から2000年の間、日本のクラシックギター界の巨匠、山下和仁（1961-）に依頼され、クラシックギターの中国音楽作品をいくつか作曲した。また、2019年にはパルマ・レコーディングス

(Parma Recordings) から《クラシック・ギター協奏曲第1番》がリリースされた。黄思瑜の作品は世界中で広く上演され、沢山の演奏家や音楽団体に好評を博している。

このレベルの作曲家がクラシックギターに貢献していることは、この楽器に明るい未来が待っているとと言えるだろう。国際的に著名なクラシックギタリストから依頼を受けてクラシックギターの中国音楽作品を作曲したことは、世界が中国音楽作品に魅了されること示している。そして、作曲家自身も中国音楽作品を創作することによって本民族文化あるいは伝統的な文化を考え直すことができる。中国のことわざに「一方水土養一方人」というものがあり、日本語に訳すと「風土が人柄を育てる」という意味であり、中国作曲家達の中国音楽への情熱が創作の源である。黄思瑜はクラシックギターのための中国古典音楽を数多く作曲したが、その中でも《大唐楽宴》組曲は最も「輝く真珠」と言われている。

2 組曲《大唐楽宴》

《大唐楽宴》組曲は、1999年に作曲家の黄思瑜が日本人ギタリスト山下和仁に委嘱されて創作した24曲のクラシックギターソロ曲である。そのうちの10曲が2000年に山下和仁によって初演された後、若手ギタリストの范曄（生年月日不明）がスイスと香港で3曲（《鹿柴》、《春夜喜雨》、《月下独酌》）を、上海音楽院の葉登民教授（1964-）が青島で《鹿柴》を演奏したことがある。

唐代の詩にインスパイアされたこの組曲は24曲で構成され、以下のように、自然、酒と友情、音楽、情緒の4つのセクションに分かれており、各々に同名の唐代の詩が6編ずつ収録されている。

自然：1. 鹿柴（王維） 2. 竹里館（王維） 3. 早発白帝城（李白） 4. 秋夕（杜牧） 5. 楓橋夜泊（張継）、 6. 宿建德江（孟浩然） 7. 春夜喜雨（杜甫）

酒と友情：8. 月下独酌（李白） 9. 将進酒（李白） 10. 涼州詞（王翰） 11. 渭城曲（王維） 12. 草（白居易）

音楽：13. 聴箏（王端） 14. 弹琴（劉長卿） 15. 琴歌（李頤） 16. 蜀僧濬弹琴（李白） 17. 李憑箏篋引（李賀） 18. 吹笛（杜甫）；

情緒：19. 相思（王維） 20. 錦瑟（李商隱） 21. 清平調（李白） 22. 瑶瑟怨（温庭筠）、 23. 望月懷遠（張九齡）、 24. 無題（李商隱）。

以下、《大唐楽宴》の二十四曲のうち、より代表的な作品の一つである〈鹿柴〉を対象とし、紹介と分析を行う。

「鹿柴」は、唐代の詩人王維（701-761）の五言絶句である。「空山不見人，但聞人語響」（誰もいない山の中には誰の姿もなく、人の声だけが聞こえてくる）、「返景入深林，复照青苔上」（太陽の光のさざなみが深い森の中に戻り、森の中の苔に再び光を放った、と、詩人は、夕べの鹿柴（陝西省蘭田県南東部）の静かな風景を描写している。空の谷の音が聞こえれば聞こえるほど虚しさが見え、人の言葉の後には静寂が加わる。夕陽の数少ない光線が暗闇の中の気分を盛り上げてくる。王維

は詩のみならず、書道、絵画、音楽にも精通していると言われる。この詩は、確かに詩と絵画と音楽の組み合わせを体現している。沈黙の静寂と光の闇は一般人には知覚されやすいが、音が付いている静寂と光の闇は一般人にも感知されにくいのだろう。王維は色彩と音に対する独特の感知力があるからこそ、窪んだ山の中の人々が語り、及び深い森が光に還る瞬間に見せる独特の静かな空間を十分捉えてきたのである。

ドイツ人の音楽学者フーゴー・リーマン (Hugo Rieman, 1894-1919) は『音楽美学要綱——我々はいかに音楽を聞くか』で以下の文を指摘している。

自然界や生活の中で聞こえる音の中には、「音楽的な」音と呼べる特徴的な音があり、鳥のさえずり、風の口笛、雷、風車の回転などはすべて音楽的な音である……人々の言語もまた、発展の余地のある音楽的な音である。

では、中国古典詩歌を西洋楽器であるクラシックギターで表現するには、どのような表現が有効であろうか。そのため、インタビューという形で、黄思瑜本人の回答をいただいた。以下に原語と日本語訳を付す。

原語：

主要的表現形式是建立在中國音樂的散板，因為中國的音樂特色之一就是有些地方的樂句是速度自由、任意，TEMPO RUBATO，完全在於當下演奏者的內心感覺及呼吸來體現，因此沒有辦法用正確的節拍或小節去框架的。所以才會使用空間記譜法來記譜，這裏面有琵琶及古琴的思考及語法，有些琵琶的輪指，顫音、撥奏等可融於吉他，借用古琴的琴音韻味融入此作品，嘗試體現吉他的可能性。

日本語訳：

この曲は主に中国音楽の「散板」テンポの上に作っている。中国音楽の特徴の一つは、所々のスピードが自由であり、演奏者の心で感じたことや呼吸に基づいてテンポ・ルバートで演奏することである。この故に、正確なスピードや小節で枠を作ることはできないのである。「空間記譜法」という拍子、小節線を使わない記譜法で記譜している。琵琶と古琴による思考と文法を曲に入れ、琵琶のトレモロやビブラートやピチカートなどの奏法をギターで使いこなし、さらに古琴の音色の味わいをこの作品に注いで、古い中国音楽をギターで奏でる可能性を試している。

この曲は、譜例1のように、作品には小節線がなく、演奏者は演奏の際に自分の心に従うことができる。このような演奏の仕方が演奏者に無限の想像力と表現の快適さをもたらす。同時に、これは演奏者の能力にとって最大の試練でもある。優れたテクニックと音楽の知識を持つだけでなく、作品の文化的な意味合いと創作方法への深い理解が求められる。

譜例 1 〈鹿柴〉冒頭

大唐樂宴 Grand Music of Tang
No. 1 鹿柴 Deer Enclosure

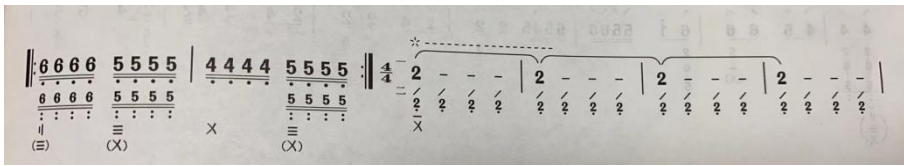
黃思瑜
Ssu-Yu Huang
June 15, 1999

譜例 2 の最後の音符の上向き矢印は、琵琶の「滑音」奏法を取り入れている。琵琶の「滑音」奏法とは、左手で弦を押さえ、フレットの左右に押したり引っ張ったりして元の位置から離し、元の位置に戻すことで音程を上げたり下げたりするという技である。

譜例 2 琵琶の「滑音」奏法

譜例 3 では、琵琶の「挑裏弦」の奏法である。譜例 1 の 2 行目にも似ている奏法がある。旋律と同時進行で右親指の外向きを利用して、低音の弦をはじくものである。

譜例 3 琵琶の「挑裏弦」の奏法（『中国民族楽曲博覧 独奏楽曲—琵琶曲譜（二）霸王卸甲』、346 頁より）



《大唐樂宴》組曲は、中国古代の詩をテーマにして創作された。文章通りの風景を聴衆に感じてもらうだけでなく、自由な発想、体感できる空間を多く残している。古代中国の詩と文学の美しさ、音楽性のあらゆる側面が、西洋の楽器としたクラシックギターを通して十分に表現されている。

第2節 その他のプロ作曲家による中国音楽作品

中国のクラシックギター音楽の創作のために活躍してきた音楽家と彼らの作品を更に読者の皆様に知っていただきたいため、第二節では特に資料の補充として考察していきたい。彼らが放った「光」は、若い音楽家たちを音楽の道で導いている。

1 譚盾

湖南省長沙市出身の譚盾（1957-）は、中国中央音楽院の「四大才子」の一人であり、国際的にも有名な作曲家・指揮者である。彼は、作品の中でグリッサンドを多用することで知られている。また、彼が伝統的でない楽器をよく使用し、紙や水や石などを楽器として演奏する場面が多くみられる。彼の作品はよく中国の劇曲と宗教などの伝統的な文化から抜粋している。これまでにグラミー賞の受賞を二回、グラミー賞にノミネートされるのを三回など、数十の賞を受賞されたことがある。譚盾の作品の中に幾つかのクラシックギターのための作曲があり、クラシックギターに関わらない曲の中にも、クラシックギターで演奏するために改編された曲も幾つかある。

譚盾は1992年にソロ・ギターのための《七個願望》を作曲し、シャロン・イスビン（Sharon Isbin 1956-）に捧げた。そして2002年、イスビンはこの作品をニューヨークのカウフマン・ホールで世界初演した。この《七個願望》の中、譚盾は「ギターは今、琵琶になる『憧れ』がある」という発想をミュージカルの形にした。彼は琵琶の音を真似し、左手の指で弦を押したり引いたりして音程を変える。また、ギターの細かい音色の特徴を利用し、琵琶の真似をするだけでなく、琵琶と一体になりたいという気持ちを表現している。この独創的なスタイルと思想の融合により、譚盾は世界的に有名な作曲家として熟知されている。

2 謝家斉

謝家斉 (Gerald Garcia、1949-) は香港生まれでイギリス国籍を有し、華人ギタリストとしても知られている。中国の演奏家楊雪霏 (1977-) は、《踏雪尋梅》、《阿拉木汗》、《望春風》などの中国音楽を数多く演奏したが、これらの作品はすべて謝家斉によって改編されたものである。その中でも、アルバム『中国名曲選 ヴァイオリンとギター』には、謝家斉が編曲したギターとヴァイオリンの二重奏の16曲が収録されており、その中の多数の曲はギターソロのバージョンも存在している。1979年、彼は有名なウィグモア・ホール (Wigmore Hall) での初演後、「ギターを聴くのが好きな人なら、謝家斉は注目すべき奏者の一人だ!」と、「稀有で質が高い演奏」と高く評価された。それはジョン・ウィリアムズ (John Christopher Williams 1941-) とパコ・ペーニャ (Pako pena 1942-) との3人によるコンサートである。どちらもかつてないほどのギターの名手であったが、謝家斉は彼らの輝きに隠されてなかった。彼がイギリスの主要な国際音楽フェスティバルに出演し、同時に、彼の音楽は世界中のラジオやテレビでも放送されている。また、謝家斉は極東、ヨーロッパ、オーストラリアを幅広く演奏の旅してきた。そして、1996年には中国で演奏できたイギリス人ギタリストの第一人者として、中国のクラシックギター愛好家に演奏した。

謝家斉は、ロンドン交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団、ジョン・ウィリアムズ、パコ・ペーニャなど、世界の一流の音楽家や音楽グループと共演したことがある。演奏活動を除き、彼は作曲にも多大な熱意を注いでいる。現在、彼の既に出版された四つのレコーディングで、全ての曲は彼が改編したものである。また、中級レベルのギタリストのために創作した『25曲のエチュード・エスキース』 (25 Etudes Esquisses) も、ジョン・ホルムクイスト (John Holmquist) によってナクソス社 (Naxos) で録音されている。

上記の二人の他にも、林幻奇、陳怡、徐孟東など、クラシックギターのための中国音楽作品の創作に専念してきた優れたプロの作曲家が多数いるが、ここでは割愛して彼らが創作した楽曲は付録に記載されている。

第3節 民間作曲家によって創作、改編された作品

私たちの周りには、特定の分野で勉強したことがなく、専門的な訓練を受けてないにもかかわらず、優れた能力を持つ少数派の人たちがいる。このような能力は天賦と呼ばれている。プロの作曲家と比べ、アマチュア作曲家あるいは演奏家が天賦だけを頼りに傑作と言える作品を生み出すのは難しいかもしれないが、彼らの作品は、自らの認識、方法を使用し、自分の民族や文化に独特の愛を表すことができる。

例えば、呂昭炫（1929-2017）は、台湾ギター音楽史において重要な創始者であり、彼の中国音楽作品は自然が溢れて独創的で詩的なものである。《夕陽河畔》、《楊柳》、《故郷》、《残春花》、《秋》などの作品は当時の聴衆達の心に深く根付いていて「台湾ギター詩人」と呼ばれている。同じく台湾出身の陳永新（1968-）は、最初言語の勉強からスタートし、音楽を言語にして考えを進んでいった。陳の言葉を借りれば、「学習音楽開啓了学習社会、文化、語言的契機，並反向深化並広化音楽創作的内涵」とあり、日本語の意味は「音楽を学ぶことは、社会や文化、言語を学ぶチャンスを導き、更に作曲の意味を深く、広くすることができた。」ということである。彼の代表作には中国音楽作品《満山春色》などがある。

第2章 演奏者によるクラシックギター中国音楽作品

第1章では、クラシックギター向けの中国音楽の優秀な作曲家たちと彼ら作品を既に紹介した。そこでこの章では、当然のことながら、美しい中国楽曲を改編・演奏したギタリストに焦点を当てて考察していく。

第1節 国際的クラシックギター中国演奏者による作品

1 楊雪霏

まず、中国を代表するクラシックギタリストの一人であり、中国音楽の作曲家・演奏家としても優れた才能を持つ楊雪霏（1977-）を紹介したい。楊雪霏は、国際的に高い評価を得ているクラシックギタリストで、現代の最高のクラシックギタリストの一人と知らされている。中国人ギタリストとして初めて音楽院に入学し、世界の舞台でプロとしてのキャリアをスタートさせたことのため、欧米では「先駆者」と呼ばれている。北京に生まれた楊雪霏は7歳からギターを始め、10歳の時に陳志氏（1936-）にクラシックギターを師事し、ギターを習得して間もなく中国国際ギターフェスティバルにデビューし、世界中の専門家と聴衆から絶賛された。同年、スペイン大使にコンサート専用ギターを贈られた。1989年、彼女は日本ギター連盟より特別賞を受賞し、有名なギターメーカー河野賢（1926-1998）が製作したギターを譲り受け、1990年には北京市長より銀帆賞を受賞した。

楊雪霏は在学中、スペイン、ポルトガル、日本、香港、マカオ、台湾など多くの国と都市で演奏会を行い、多くのテレビとラジオ番組で紹介されている。彼女の演奏は情熱的かつ繊細であり、音楽的な個性が際立っている。著しい作曲家ホアキン・ロドリゴ（Joaquin Rodrigo 1901-1999）が彼女のマドリッドのコンサートに出席し、「これが14歳の演奏だなんて信じられない」と言っていた。1995年、クラシックギターの巨匠のジョン・ウィリアムズは楊雪霏の演奏を聞いて感動され、自分のスモールマン（Greg Smallman）ギターを彼女に演奏させた。

楊雪霏が演奏したクラシックギターの中国音楽作品には、主に2つのタイプがある。楊が自らの編曲したものと、他の作曲家によって彼女のために創作された曲である。全ては彼女の出版したアルバムに収録されている。楊雪霏は子供の頃から中国伝統音楽の影響を受けて、中国音楽に対して自分の理解と解釈を持っている。優れたテクニックと繊細な音楽表現力の持ち主として、スティーブ・ゴス（Stephen Goss, 1964-）、陳怡（1953-）などの著名な作曲家が楊のために曲を創作し、数え切れないほどのコンサートを開催している。楊雪霏は中国音楽作品をクラシックギターで表現する先駆

者の一人であり、中国の音楽文化を世界に見せ、世界に中国文化を理解するために窓を開いたと言える。

2 殷飜

楊雪霏の前に活躍していた殷飜（1967-）も、中国大陸のギター愛好家が推賞する中国音楽の演奏家である。聴衆が何を聴きたいのか、様々な韻律をギターでどう表現するのかを熟知しており、琵琶の演奏技術を大胆にギターに移植している。中国音楽作品をクラシックギターで演奏した最初の演奏者人は殷飜とは言えないが、この道を歩んで中国で有名となったのは彼が初めてである。彼の改編、そして演奏した中国音楽作品によって、当時クラシックギター界にある「クラシックギターには中国音楽作品の演奏が相応しくない」という認識を一変し、他のギタリストに認められている。殷飜は『潯陽のギター』や『ギターの魅力』などのアルバムを発表し、計20曲以上の中国音楽作品をクラシックギターのため改編していた。

代表曲は《梁山伯と祝英台》である。殷飜がクラシックギターで初めてこの曲を弾いたことを介し、有名となってきた。しかし、編曲の創造性、細部の不足、演奏テクニックの限界など、様々な原因によって、この名曲は、楊雪霏が編曲して演奏するまで、世界クラシックギター界に好評されていなかった。

古代中国民話「梁山伯と祝英台」は、中国の最も魅力的な口頭伝承物語として知られ、約1700年間前から伝承されて国家無形文化財の一つである。作曲家何占豪（1933-）と陳剛（1935-）によってこの物語を題材にしたヴァイオリン協奏曲《梁祝》が作曲された。1959年5月27日、上海蘭心劇場で初演され、俞麗拿（1940-）はヴァイオリン・ソリストとしてこの曲を奏でた。このヴァイオリン協奏曲《梁祝》は、伝統戯曲の叙事の仕方、民族音楽の技法、西洋協奏曲の形式を融合し、内容から表現まで聴者の心を揺らす効果を生み出している。導入部を伴った提示部、展開部、再現部の3つの部分から構成されており、ソナタ形式である。以下に構成の詳細を紹介する。

導入部：フルートが奏でるカデンツァで始まる。

テーマの旋律はオーボエが奏でる。

提示部：メインテーマである「愛のテーマ」は、ハープを伴奏にバイオリンが美しく素朴に表している。このメロディが作品全体の中で重要な役割を果たしている。サブテーマで音楽は賑やかで陽気なスケルツォへと移行していく。ソロとオーケストラが交互に演奏し、アレグロの後、音楽はレントでサブテーマの締めくくりの部分へと移行する。

展開部：3つの部分で構成されており、低い音響で何か不吉なことが起ころうとしていることを示す。続いてヴァイオリンが不安と苦痛のムードを奏でる。オーケストラの激しい合奏はソロヴァイオリンを引き立て、それからシンコペーションされた和音で抵抗のテーマを表現

している。段々矛盾が積み重なっていくが、突然音楽が止まる。チェロとヴァイオリンがすすり泣きながら対話するような曲調で、音楽はレントに移行します。銅鑼、太鼓、管楽器、弦楽器の音を一齐に鳴らし、クライマックスを迎え、オーケストラが賛美歌を奏でる。

再現部：導入部のフレーズが現れる。フルートとヴァイオリンが交互に演奏されるフィナーレは、どんどん軽やかになっていき、作品を締めくくる。

譜例4は、楊雪霏が改編と演奏した《梁山伯と祝英台》のクラシックギターソロ版から引用している。国内外の有名作曲家とのコラボレーションを長く続けてきた彼女は、同時に自身の創作経験と技術を充実させてきた。譜面からもわかるように、ここはペンタトニック音階の急速な進行であり、右手の人差し指と中指を交互に弾くという伝統的な方法で演奏すると、曲自体に求められるスピード感を得ることは難しいだろう。ここで、楊雪霏の演奏がカンパネラ奏法を用いて、スピードと連続性の問題を完璧に解決している。

カンパネラ奏法とは、主にリュートで使われる奏法の一つで、音階を弾く時に隣り合う音を別の弦に配置し、前の音がまだ共鳴している間に次の音を弾くことで、「アルペジオ」を演奏するように弾く方法である。それはピアノのサステーンペダルを踏んだり、ハーブで音階を弾いたりするような効果を持っている。譜例に示される通り、速い音階を演奏する際、スピードと連続性が必要なフレーズに最適である。

譜例 4 《梁山伯と祝英台》



演奏者にとって、演奏テクニックはもちろん大切なことだが、楊雪霏は音階を正確かつ流暢に弾けるだけでなく、異なる特徴を持つ音楽にクラシックギターのテクニックを適切に使うことは、彼女の

演奏の優れるところである。楊雪霏は様々な音楽スタイル表現でき、今の中国で最も注目されるクラシックギタリストの一人となっている。

3 蘇昭興

台湾出身の有名なクラシックギタリスト、蘇昭興（1948-）も紹介しておこう

彼は、台湾全土の文化センターや大学、アメリカ、日本、上海など遠く離れた場所でも演奏したことがあり、三十枚のレコーダーとカセットテープをリリースし、ギター音楽に関する本も10冊出版されている。西洋クラシックのギター音楽や世界的な名曲の演奏に加え、中国音楽作品をギターで表現することでもよく知られている。それで、「東方のギターの王子様」と呼ばれている。蘇昭興は幼少期からクラシックギターを好きで、音楽専門学校などは行ったことなく10年以上の自学と練習を重ねることで、ある程度のクラシックギターのテクニックを身につけてきた。その後、フラメンコ音楽、ラテン音楽、外国の民謡、欧米の軽音楽など、演奏の分野を広げていった。蘇昭興はギター音楽の旅の中で非常にユニークな道を歩んできた。それは、クラシックギターを使って中国の音楽作品を演奏することである。例えば、《秋の詩》や《海辺の故郷》などの創作作品と、《王昭君》や《鳳陽花鼓》などの改編曲がある。その中でも代表的な曲《王昭君》（作曲時期は不明）は、蘇昭興が伝統的な琵琶曲からクラシックギター曲に改編した名曲である。この作品は、中国の伝統楽器の奏法を用いて、中国音楽における情緒表現の含蓄的な特徴をクラシックギター演奏で表し、そして、数千年に渡って語り継がれてきたこの物語を、新たな可能性の中で継承していくことができるようにしている。

第2節 中国音楽に「夢中」になる海外演奏者による中国音楽作品

楊雪霏のように中国音楽を国際舞台に送り出したハイレベルな演奏家の出現により、海外の演奏家が中国の楽曲を好きになり、それを演奏するケースが増えてきている。ここではヨハネス・メラーを取り上げる。

ヨハネス・メラー（Johannes Moller, 1981-）はスウェーデンのギタリスト、作曲家、12歳で作曲を独学し、あらゆる種類の楽器のために室内楽曲を数多く作った。14歳で初のCDをリリースし、20歳でヨーロッパの3つの国際的な器楽コンクールで優勝して、世界中の多くのリスナーから賞賛されている。スウェーデンのヨーテボリ新聞（Göteborgs-Posten）は、「メラーは当代の『スウェーデンのモーツァルト』になるだろう」と述べていた。ヨハネスは熟練した演奏家であり、クラシックはもちろ現代の作品も完璧に演奏できる。2014年9月、ヨハネス・メラーは中国での個人ツアーを行った。帰国後、中国での経験により、《五首中国印象》（Five Chinese Impressions）を作曲

した。その中、第二曲の《春之歌》（Spring Song）は長沙国際ギターフェスティバルのギターコンテストの少年組の課題曲となっている。2015年7月、ヨハネス・メラー・ツアーは雲南芸術学院、西安音楽院、四川音楽院、星海音楽院など中国13都市の大学で開催され、クラシックギターの普及と学習ブームを起こした。長年にわたり中国音楽作品を演奏してきたほか、中国の歌を改編したアルバム『ギター上の中国記憶』とそれに付随する楽譜には、《在那遥远的地方》や《我和我的祖国》など12曲が収録されている。これまでに発表された《六首中国歌曲》《春江花月夜》《五首中国印象》と合わせ、ヨハネス・メラーの中国風作曲は20曲以上になる。今後、『ギター上の中国記憶』の第二巻と第三巻のリリースを期待し、注目したいところである。中国の作曲をこよなく愛する音楽家ヨハネス・メラーが、中国の印象を中国に持ち帰り、世界に広げていく。

ヨハネス・メラーのように中国音楽を愛する海外の音楽家は他にも数多くいるが、ヨハネス・メラーのように自分の代表作を持てる有名な音楽家は筆者の知るかぎり一人しかいない。将来、より多くの中国音楽作品が世界の舞台に登場でき、海外のトップアーティストがクラシックギターのため、中国音楽作品を創作することを期待している。

結論

本研究を通し、中国音楽作品をクラシック・ギターで表現する方法が一般的に二通りあることがわかる。一つ目は、クラシック・ギターの技法を生かして既存の中国音楽作品を改編して演奏することである。二つ目は、中国の民話や詩などの題材を音楽作品のテーマとし、中国楽器の奏法をクラシックギターに移植して中国音楽作品の特徴を表現することである。

西洋のクラシック音楽は宗教音楽を原点とし、和声をベースにしている。聴き手が西洋宗教の歴史や文化を理解していない状態で鑑賞すると、音楽の体験が損なわれてしまうこともある。中国人の聴衆にとっては、文化的背景をよく理解できる中国音楽作品の方が受け入れやすい。ということで、中国音楽作品を演奏することは、西洋のクラシック楽器としてのクラシックギターを中国での普及に最も効果的な方法と言えるだろう。

聴覚の芸術として存在している音楽は、聴き手の心を打つことが重要である。美しい音楽作品において、聴衆の心に最も強く響くのは旋律と言って良いのだろう。和音を基礎として作られた西洋のクラシック音楽とは異なり、旋律が最も分かりやすい中国の伝統音楽は独特の魅力を持っている。このことは、外国人演奏家が中国の音楽作品の制作に積極的に参加していることから明らかである。したがって、世界の舞台で比較的活躍し、欧米の聴衆にもよく知られているクラシックギターによって、中国音楽作品を演奏することは、中国の伝統音楽を広げ、紹介することに適した手段と考えられる。

人はまず自分自身を知り、そして本格的な「我」となり、最後に素晴らしい者となれる。西洋のクラシック音楽に比べて、中国伝統的な音楽は、より複雑な存在であり、中国の伝統文化の重要な象徴の一つである。音楽文化は非常に地域的なものであり、音楽家は自分たちのルーツを知らなければ、個性的で感情豊かな曲を作ることができない。自分のことを理解せずに他人の真似をしようとすると、結局は自分の道を見失うこととなる。中国音楽に興味を持ったことは、私を学習と演奏の新たな道に導いた。同時に、中国文化にある未知な可能性を探求し、世界の舞台で示すことも、西洋音楽文化の学習者である筆者にとって非常に重要な課題である

日本での勉強を終えた私は、ヨーロッパでの勉強を続け、本格的なクラシックギターを学ぶことを目標にしている。今後は、中国音楽作品をより多く演奏し、発表することが私の次のステップとなる。目標を明確に持ち、努力を怠らず、集中力を保ち、愛するクラシックギターと共に人生の修業を完遂することを目指して行く。最後に、クラシックギターの中国音楽作品が世界を魅了し、クラシックギター音楽におけるブームを起こすことを期待している。

謝辞

本論文の第1章第1節に、作曲家黄思瑜先生に原語資料を提供して頂くとともに、指導して頂いた。温かい助けに支えられ、筆者は洗足学園音楽大学音楽研究科弦楽器専攻修士課程在籍中に研究成果をまとめて副論文を完成するまでに至った。ここに深い感謝の意を込めてお礼を申し上げたい。

資料・参考文献リスト

フーコー・リーマン 2005『音楽美学要綱』 馮長春訳 上海:上海音楽出版社

インターネット資料

1. Wechat 公式アカウント『中国古典吉他资讯与赏析』
徐鳴鶴「吉他上的中国风—陈永鑫作品」2016/10/12 閲覧
- 2 Wechat 公式アカウント『中国古典吉他资讯与赏析』
投稿者不詳『黄思瑜《大唐乐宴》24 首吉他独奏曲，山下和仁委托并首演，听后有啥感想？』
2019/02/25 閲覧
3. Wechat 公式アカウント『中国古典吉他资讯与赏析』
王建国「目前，古典吉他弹中国风格作品知多少？（上）」2019/08/14 閲覧
4. Wechat 公式アカウント『中国古典吉他资讯与赏析』
王建国「目前，古典吉他弹中国风格作品知多少？（中）」2019/08/17 閲覧
5. Wechat 公式アカウント『中国古典吉他资讯与赏析』
王建国「目前，古典吉他弹中国风格作品知多少？（下）」2019/10/02 閲覧
6. 『名人履歴』より <http://m.gerenjianli.com/Mingren/14/5do0rern0g.html>
7. 『黄思瑜』より http://www.musicated.com/syh/index_ch.htm
8. 『台湾吉他詩人呂昭炫』より <http://www.luchohsuan.com>

クラシックギターの中国音楽作品一覧

原创作品

作品	作者
A	
《爱情之歌》(2017)	林幻奇
B	
《别亦难》(1989)	何占豪
C	
《残春花》(1948)	呂昭炫
D	
《多耶》(1984)	陈怡
《大唐樂宴》組曲 (1999)	黄思瑜

《淡水绮想曲八首》(2004)	陈永鑫 (1968-)
《独白》(2019)	林幻奇
G	
《故乡》(1962)	吕昭炫
《古琴主题与变奏》(2015)	林幻奇
H	
《海边故乡》(创作年代不祥)	苏昭兴
J	
《吉他与乐队协奏曲：易二》(1996)	谭盾
《交响变奏曲 丝路流韵》(2016)	徐孟东 (1953-)
L	
《梁山伯与祝英台》(1958)	何占豪 陈刚
《龙华塔》(1980)	何占豪
M	
《苗岭的早晨》(1975)	陈刚
P	
《菩提 1V》(2006)	徐孟东
Q	
《七个渴望》(1992)	谭盾
《秋夜》(1998)	黄思瑜
《秋诗》(创作年代不祥)	苏昭兴
S	
《手势》(1996)	谭盾
《说唱》(2013)	陈怡
《山林印象》组曲(创作年代不祥)	陈永鑫
T	
《太极》(2011)	黄思瑜
W	
《望春风》	黄思瑜

《五首中国印象》曲集 (2015)	约翰内斯·莫勒 (1981-)
X	
《小镇印象》组曲 (1995)	陈永鑫
Y	
《杨柳》 (1962)	吕昭炫
《阳光照耀塔什库尔干》 (1976)	陈刚
《远籁》 (2011)	徐孟东
《雨落海港》 (2013)	黄思瑜
Z	
《中国寓言故事》 (2002)	陈怡
《25 首草图练习曲》 (创作年代不祥)	谢家齐
改编作品	
作品	作者
A	
《阿拉木汗》 (创作年代不祥)	谢家齐
C	
《春花望露》 (2013)	黄思瑜
《春江花月夜》 (2020)	杨雪菲
F	
《凤阳花鼓》 (创作年代不祥)	苏昭兴
G	
《桂花巷》 (创作年代不祥)	陈永鑫
J	
《吉他魅力》 (1988)	殷飏
《吉他上的中国记忆》曲集 (2017)	约翰内斯·莫勒
L	
《梁山伯与祝英台》 (2008)	杨雪菲
《六首中国歌曲》 (2017)	约翰内·莫勒
M	
《木兰姑娘》 (2013)	黄思瑜

《满山春色》（创作年代不祥）

陈永鑫

《茉莉花》（创作年代不祥）

陈永鑫

W

《望春风》（2006）

黄思瑜

《王昭君》（创作年代不祥）

苏昭兴

《望春风》（创作年代不祥）

谢家齐

X

《浔阳吉他》（1988）

殷飏（1967-）

Y

《彝族舞曲》（1999）

杨雪菲

Z

《中国名曲选—小提琴与吉他》曲集（创作年代不祥）

谢家齐